

【鑑賞対象 A：建築物】

国立科学博物館

もう一つのリニューアルプラン

先日、ある地方都市に行く機会があった。地元の先生方にお話を伺うと「美術館が少なく鑑賞の授業が難しい」とのことであった。

しかし、そこには美しい公園内に建つすばらしい建築がいくつもあった。建築を対象とした鑑賞活動をやってもよいのではないかと、その時に思った。

興味深い建築を前に、建築家や建物を管理している方に話を伺うなど、いろいろと可能性は広がる。理想の建築を考えたり、模型をつくったりなど、学校での事前・事後の授業も工夫次第である。

建築鑑賞は屋外が予想されるから、交通等、安全には細心の注意を払うのは言うまでもない。公園などの広場にある建築物なら申し分ない。

東京の上野公園に「国立科学博物館」という建物がある。地方の人たちも一度は訪れたことがあるのではないだろうか。この博物館の本館（現、日本館）は1930（昭和5）年につくられた歴史あるもので、建物だけを見ても興味深い。最近、改修された天井にあるステンドグラスなども輝きを取り戻した。

さて、改修工事を担当した建築家によると、この建物の欠点は、ドームが低すぎて、外観からはほとんど見えないことなのだそうだ。これは創建当時、ドームについての知識が欠如していたからだと言う。

改修時、この建物のドームをよく目立つものにするプランがあった。現在、日本館の裏手にある球体状の360度シアターを屋上に設置する案があったのである。この案では、立派なドームがバランスよく設置されて、現在の建物の欠点はなくなり、公園内のシンボリックな存在になるはずであった。

現状を維持するという強い反対意見により実現しなかったが、もしできていたら、きっとおもしろい建物になったであろう。このようなことを思いながら建築物を鑑賞するのはとても楽しいものである（参考資料：「新建築」2007年11月号）



現在のドームに球体を載せる案

（小池研二：横浜国立大学准教授）